

時 日	午 前 8.00 ~ 12.00	午 後 13.00 ~ 17.00	夜 間 19.00 ~ 21.00
9月5日	(調査活動) ○講義・討議 (渡辺博史)	○演習(班別研究)	○演習(班別研究)
9月6日	○演習(班別研究)	○全体討議	情報交換
9月7日	(プログラムの編成) ○講義・討議 (岡本包治)	○演習(班別研究)	○演習(班別研究)
9月8日	○全体討議	ま と め 会	

(6) 研修会で作成した資料

- ① 昭和47年度社会教育主事等研修会要項
- ② 同 社会教育主事等研修会講義記録
- ③ 同 社会教育主事等研修会実施報告書

(7) 効果

4泊5日全員宿泊研修の機会を持ち、お互いの人間的なつながりのうえ班別研究による演習のため、身についた研修ができ、所期の目標を達成することができた。特に本年度から全日程履修者に修了証を交付し、専門職としての意欲化を図ることができた。

3. 社会教育委員研究協議会

(1) 目的

社会教育をすすめるうえで、市町村社会教育委員のあり方はきわめて重要な役割をになっている。したがって社会教育委員としての性格、任務について理解するとともに、活動上の諸問題について研究協議を行ない、もって本県社会教育の振興に資する。

(2) 期日・会場・参加者数

- ① 期 日 昭和47年6月13日～14日
- ② 会 場 福島市飯坂町婦人会館
- ③ 参加者数 164名

(3) 講師

- 福島大学教育学部教授 堀口知明
- 県教育庁社会教育課長 渡辺政三
- 県教育庁社会教育課主幹 松本 久

(4) 参加対象者

市町村社会教育委員、同社会教育課長

(5) 内容

- ① 講 義
 - ア 社会教育委員の性格と任務について
 - イ 社会教育の方向と、本県の課題
 - ウ 社会教育における公民館の役割
- ② 研究討議(体験発表を中心に)
 - 社会教育委員としての問題点

(6) 効果

市町村社会教育委員研究協議会資料をじゅう分活用し、本県社会教育の現状および課題について理解を深めるとともに、推進上の諸問題について活発な討議がなされた。今

後の活動が大いに期待される。

4. 社会教育研究協議会

(1) 目的

社会教育行政関係者の参加をえて、社会教育行政基盤の整備充実および社会教育事業の具体的な推進について研究協議し、その理解と協力につとめ、社会教育行政の浸透充実をはかり、もって地域社会の進展に寄与する。

(2) 期日・会場・参加者数

期 日	会 場	参加者数
昭和48年10月19日	原町市役所	86名
〃 10月31日	北会津郡北会津村公民館	128名
〃 11月1日	南会津郡館岩村公民館	120名
〃 11月9日	伊達郡保原町公民館	120名
〃 11月22日	須賀川市公民館	175名
昭和49年1月19日	いわき市湯本公民館	127名
〃 1月23日	東白川郡塙町公民館	113名

(3) 講師

- 県総務部地方課財政第一係長 山口 充
- 文部省社会教育官 湯上二郎
- 国立教育会館理事 林部一二
- 東北大学教育学部教授 塚本哲人
- 福島市教育委員会教育長 辺見正治

(4) 参加対象

市町村長・市町村議会議員・教育委員・社会教育委員
小中学校長・公民館職員・公民館運営審議委員・各種
団体代表者

(5) 内容

- ① 研究協議題
 - ア 社会教育行政基盤の整備充実について
 - イ 社会教育事業の具体的な推進方策について
- ② 研究協議の方法
 - ア 講演または講義
 - イ 研究発表(研究指定市町村を中心に)
 - ウ 分科会・全体討議
 - エ パネル討議

(6) 効果

社会教育関係者と社会教育に関連する各種行政機関の関係者が一堂に会し、生涯教育の目標達成のため、社会教育行政基盤の整備充実、社会教育活動の具体的な推進方策について検討し、相互理解を深めることができた。今後の条件整備が期待される。

5. 社会教育研究指定市町村

(1) 目的

社会教育と社会教育に関連する行政機関、団体の相互理解を深め、地域課題解決のための具体的方策についての調査研究を行ない、これが実践をととして社会教育の振興に資する。

(2) 研究指定市町村

区 分	指 定 市 町 村	区 分	指 定 市 町 村
伊 達 信 夫	伊達郡保原町 福島市(東部)	安 達 郡 山	二本松市 郡山市(安積町)